

◆ 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 各研究分野指導内容

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
健康解析学講座 医療統計学分野 Biostatistics 松井茂之	医学研究や医療現場で観察される不確実な現象の背後にある真実を帰納的に推論し、予測するためのデータ科学の方法論と実践について研究しています。方法論研究では人を対象とした医学研究の計画とデータ解析に関する広範なテーマを扱っており、伝統的な統計科学の方法論のみならず、近年発展している機械学習の方法論も積極的に取り入れて手法開発を行っています。方法論の実践研究は、幅広い疾患領域の診断・治療法に関する探索的研究や検証的研究の共同研究から着想を得たものであり、既存の実践の範囲を超え、医学・医療上の新たな価値の獲得を探索するものとなります。
健康解析学講座 医療疫学分野 Healthcare Epidemiology 山本洋介	医療疫学分野では、医療や健康問題に関するさまざまな疑問（例えば、医療者が患者と接する中で抱いた臨床上の疑問など）を解決するための臨床疫学研究を行っている。特に、健康関連 QoL 尺度を含む患者報告アウトカムを用いて（必要に応じて、その測定に必要な尺度の開発・検証も実施）、把握することが難しい健康状態を可視化することで、医療・社会の問題を明らかにするための研究に取り組んでいる。 なお、医療疫学分野は、エビデンスを生み出す研究のみならず、そのエビデンスと医療実践や社会慣習との間にあるギャップを測定し埋める研究、すなわちエビデンスを診療や社会に繋げる研究をも重視している。当分野は、このような認識に基づき、新時代の医療を臨床疫学研究の手法でもって創造していく意欲のある方々を歓迎する。
健康解析学講座 薬剤疫学分野 Pharmacoepidemiology 川上浩司	臨床疫学研究を推進し、薬剤疫学も標榜する我が国唯一の講座である当教室では、レセプト、DPC、電子カルテ、調剤等の大規模な医療リアルワールドデータ、母子保健や学校健診等の健診情報データベース、健康行動情報といった豊富な基盤をもとに、疫学的手法を用いて様々な診療科領域における臨床研究を力強く実施しています。医療現場や公衆衛生上のリサーチクエストをもとに、医療の有効性や安全性を検討するアウトカムリサーチ、診療実態や医療の適切性評価、母子保健および学校健診情報を用いたライフコース疫学研究、デジタルヘルス研究、政策科学研究など幅広い領域をカバーしています。新医学を志す大学院生や若手研究者をお待ちしております。
健康解析学講座 ゲノム情報疫学分野 Genome Epidemiology 松田文彦	ゲノム情報疫学分野では、高血圧、糖尿病に代表される生活習慣病の遺伝的要因の解明に向けて、ヒトゲノム上に多数存在する遺伝子多型を用いた疫学的スケールの遺伝解析を行う。また、そういった大規模な解析に必須の遺伝子データベースの構築、遺伝統計学解析プログラムの開発を行う。
健康管理学講座 医療経済学分野 Healthcare Economics and Quality Management 今中雄一	医療の「質・安全と経済性」をテーマに医療現場と制度・政策において、問題解決志向型の研究・開発を行っており、学術上および実務上の高度な専門性の獲得を目指して教育・人材育成を行う。「問題解決志向」の学際・多領域統合的な分野として、学術研究の遂行と同時に医療の評価と向上のためのシステムや方法論を開発し、社会的・学術的課題の解決に貢献することを目指す。多領域・多機関との連携を図り、膨大なデータベースを構築・解析し発展させ、現実の政策・制度と経営・管理に活用される重要な研究開発成果を数多く挙げてきており、さらに医療機関、地域・まちづくり、国のシステムへの貢献を目指す。 指導時には、個々に重点領域を定めて、①医療の質・安全・公正と経済性の評価（医療の質指標、アウトカムやプロセスのばらつきと要因、費用効果分析、費用効用分析、原価分析）、②医療のマネジメント・システムと経営、③地域など集団レベルの健康、医療の質、医療費と医療資源、④医療制度・システムとその改革、政策関連シミュレーション⑤関連する情報技術・情報基盤、などの領域において教育訓練を行う。 社会的ニーズの高まる当領域の『研究者』の育成に力を入れるとともに、経営幹部候補生を養成する『医療経営ヤングリーダープログラム』を人数限定で提供する。

＜フィールド医学領域＞	
健康と疾病とのありよう、とりわけひとの老化の様態について、地球規模の生態学的視点から、異なる自然環境とそこにはぐくまれる習俗、歴史、文化、価値体系とのかかわりのなかから老年医学的研究・教育を行う。東南アジア研究所にてその教員の指導のもと、本邦ならびにアジアの各地に直接赴いて研究を実施する。	

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
健康管理学講座 医療倫理学分野 Medical Ethics 井上悠輔	<p>今日、患者や医療の担い手にとどまらず、研究開発・産学連携の現場、社会における知識・情報の発信・報道、そして国における政策の決定や運用において、「倫理」は重要なキーワードの一つとなっています。こうした背景を踏まえ、当分野では、医科学や公衆衛生における倫理的・法的・社会的課題（ELSI）について、人文・社会科学アプローチを基調としつつ、学際的に取り組めます。研究者を目指す者のほか、「倫理」に関する実務を担う者、普段の実践活動に倫理・制度面からの検討を加える希望を持つ者など、個々人の関心や問題意識に応じた指導を行います。扱ってきた主たるテーマは、「先端医療・医科学の倫理」「公衆衛生・疫学の倫理」「医療・健康データ、人体組織の活用の倫理」「医の倫理や制度の展開」が例示されますが、具体的なテーマは進路や興味関心に応じて相談して決めることとなります。系の文理は問いませんが、実証的な調査手法（例：意識調査、計量書誌学的アプローチ）、比較制度分析等の指導を重視しており、国内外の論文講読や調査手法の習得、検討結果の発信に意欲がある必要があります。</p>
健康管理学講座 健康情報学分野 Health Informatics 中山健夫	(本年度は学生募集しない)
健康管理学講座 医学コミュニケーション学分野 Medical Communication	<p>医療コミュニケーションが主に「患者と医療者の対人コミュニケーション」に焦点を当てているのに対し、医学コミュニケーションは死生観・価値観といった個人内コミュニケーション（マイクロレベル）から、メディア（マクロレベル）といったヘルス領域におけるコミュニケーション全般を扱う。まさに「人が関わればこれコミュニケーションなり」である。また自然科学に立脚した医学だけでなく、社会科学である社会学、コミュニケーション学、障害学からも影響を受けた研究を行っている。教員（岩隈）は現在、障がい者の高齢化・二次障害、脊損者の排泄管理と社会心理的影響、がん患者の就労、ピアサポート、質的研究と量的研究を用いた研究（混合研究法）に関心があるが、学生たちはそれぞれの関心テーマに取り組んでいる。</p>
健康要因学講座 環境衛生学分野 Health and Environmental Sciences 西浦博	<p>感染症疫学や理論疫学について集中的に技術を学び、それを極めることをモットーにして、環境と健康の関わりに対峙します。新型コロナウイルス感染症をはじめ、突発的な流行が発生した際に、地域・国・世界を代表して集団を守ることでできるエキスパートを育成することを目標としています。具体的には、①感染症疫学に関する研究、②数理モデルや統計モデルを利用した理論疫学に関する研究、③感染症を中心とする国際的な健康問題、国際保健に関する研究、④リスク解析や人口モデルなど数理モデルの応用研究、⑤環境と感染症の関わりに関する研究、などを中心的な課題として、現場経験と観察データ分析を重視したメンタリングと研究トレーニングを行います。</p>
健康要因学講座 健康増進・行動学分野 Health Promotion and Human Behavior 井上浩輔	<p>「なぜ、ある介入や施策が健康を改善するのか」「誰にとって効果的なのか」といった問いに答え、健康を増進するための科学的なエビデンスの創出を目指しています。まずは、健康や病気に関する現象を正しく理解するために、疫学の基本的な考え方や統計の基礎を丁寧に学びます。そのうえで、行動科学の視点も取り入れながら、因果推論や機械学習といった先進的な分析手法を実データに応用し、より実践的な知見を導き出していきます。具体的には、糖尿病などの病気の予防・治療に関する臨床疫学研究、医療・保健サービスが人々の健康に与える影響を評価するヘルスサービスリサーチ、一律の対応ではなく個人に合わせた「ターゲティング（個別化）戦略」の設計と実装を行っています。また、国内外の共同研究や大規模データを活用した国際的な研究にも積極的に取り組んでいます。専門分野やバックグラウンドを問わず「データを使って社会の健康課題を解決したい」「よりよい介入や制度をつくる力を身につけたい」という意欲ある学生・研究者を歓迎します。</p>
健康要因学講座 予防医療学分野 Preventive Services 石見拓	<p>デジタルヘルスを活用した健康増進、病気の予防・治療から、心停止に対する救急蘇生まで、疾病のあらゆるステージにおける「身近な臨床疑問」を解決し、臨床行動の変化に繋がるエビデンスの創出を目指しています。『学問の前では一学徒』をモットーに、適切な方法論を用いて真理に近づくべく、教員・学生の区別なく共に学び研究する姿勢を大切にしています。臨床研究の計画立案から論文文化までを学生自身が経験することを重視し、教員による濃密なメンタリングと週1回のカンファレンスを実施しています。また、パブリックヘルス実装学講座と協力し、実装科学に関する研究・講義を行うなど、研究成果を社会へ発信・実装する取り組みを推奨・支援しています。</p>

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
国際保健学講座 社会疫学分野 Social Epidemiology 近藤 尚己	健康の社会的決定要因を深く理解し、世界の保健課題の解決に成果をあげられるトップクラスの人材を育てます。貧困・孤立といった個人の社会状況に加え、所得格差やソーシャルキャピタル、文化環境といったマクロな社会環境、さらには自然災害・パンデミック・経済不況等の「危機」が健康格差へ及ぼす影響などについて、理論形成と主に計量分析で説明します。また、これらの現象理解に基づき、国・地域・学校・職場など、各レベル・各種のコミュニティ環境を対象とした保健施策、とりわけ健康格差対策に資する社会行動モデルに関するエビデンスをつくり出します。アジア太平洋地域・欧米諸国との共同による高齢者の大規模コホート（JAGES・HRS）、多様な企業や医療機関等との共同研究を通じて地域包括ケア・健康経営・社会的処方といった諸活動のあり方や健康推進効果・健康格差是正効果を明らかにすべく、実証研究や因果推論手法の研究に取り組んでいます。介入研究では現場での実践との共創的戦略を重視しており、大学院生には積極的にフィールドに出してもらいます。
ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理システム学 Health Security System 今中 雄一	健康危機管理に対する準備・予防、対応、復旧、復興のシステムの向上に関する研究を行います。そして、健康危機に対する社会・地域や組織のレジリエンスの向上に関する研究を行います。
ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理情報解析学 Epidemic Intelligence and Health Emergency Response 西浦 博	健康危機時の感染症流行や病原体のリスクアセスメント、情報解析とその結果の伝達に関して集中的に学びます。大規模な感染症が起こる前から動物等が保有する病原体のリスクを理解し、ヒトの行動（例えば、移動や接触）の影響とその制御の影響分析を行います。
ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理多分野連携学分野 Multi-Sectoral Preparedness & Strategic Coordination 久保 達彦	多種多様な組織が同時に活動する健康危機管理においては関係ステークホルダー間の多分野連携体制を平時からの連続性をもって戦略的に仕組み化しておく必要がある。容易ならざるこの課題に挑むべく、本分野ではマルチセクター/マルチステークホルダー間をつなぐ情報サイクルの構築を通じて多分野連携を実現し、もってオールハザードアプローチに基づく健康危機情報管理、健康危機体制管理を実行する技術/制度/政策について研究する。必然として、研究は学術領域や国境の壁を超えて推進する。また国際緊急援助分野で活躍できる人材の育成を目指す。
ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理実装学分野 Implementation Science for Health Security 石見 拓	エビデンスに基づく臨床的治療や実践、組織的および管理的介入を日常の実践に体系的に取り入れる方法を研究する学問である実装科学の視点から、健康危機に対する準備や予防、健康危機発生時の対応を効果的、効率的に社会実装し、広げる方法に関する研究を行います。PHR（パーソナルヘルスレコード）をはじめとしたデジタルヘルスの活用、救急蘇生領域で発展した体系的な教育プログラムの応用など予防医療学分野やパブリックヘルス実装学講座と協力して、研究・教育・指導を行います。
ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理対応力開発分野 Capacity Development in Health Emergency and Crisis Management	行政・医療の実務者が短時間で危機対応力を高められる教育・研究プログラム等を研究・開発します。被災地域・避難所等での対応力を強化するため、各種災害訓練を企画・実施します。演習の中で安全確保、状況評価、多機関連携、指揮調整等を学ぶ機会を提供します。

(2026年4月開設予定)

◎ 東南アジア地域研究研究所

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
社会生態学講座 環境生態学分野 Environmental Ecology 山崎 渉	環境中には様々な病原微生物が存在しています。動物を含む環境中の様々な病原微生物によって感染症が引き起こされると同時に、感染症の流行は様々な影響を社会に与え、変容をもたらしてきました。これらの病原体が動物の体内を含む環境中でどのようにして発生したのか、環境中でどのような生態をとっているのか、どのように動物種の壁を越えるのかは不明な点が多いです。当分野では生態学的アプローチを用いて、病原微生物と感染症に関連する様々な要因を解析しています。

◎ 環境安全保健機構

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
健康要因学講座 産業厚生医学分野 Occupational Medicine 阪上 優	<p>累積された疲労やストレスは、多くの疾患の発病に関与しています。産業医学は、蓄積されたストレスや疲労からくる疾患の未病状態の早期発見の最前線でもあります。私たちは、産業医学・ストレス医学を基盤として、臨床医学や基礎医学の研究室ともコラボレーションしながら、以下のような研究を企画・推進しています。</p> <ul style="list-style-type: none">・慢性ストレスおよび疲労に関する生物学的・社会医学的総合研究・過労死等の労働災害防止のための医学研究・治療と仕事の両立支援と労働安全衛生法の医学研究・地球温暖化に伴う災害時や職域等における熱中症予防対策のための医学研究 <p>本分野の指導教員は全員、京都大学の専属の産業医・健康管理医です。産業医学の最前線の情報が集積しやすく、最新の産業保健関連法を学ぶ機会にも恵まれています。研究室では、年間を通して産業医学・保健学研修会も開催しており、産業医学を深く総合的に学ぶことができます。懇切丁寧なメンタリングと共に、キャリアパスの手厚い支援も心がけています。</p>

◎ 連携大学院

講座・研究分野・ 指導教授氏名	研究内容及び指導内容
国立保健医療科学院 健康危機管理政策学 Health Security Policy 富尾 淳	私たちの健康に重大な影響を及ぼしうるさまざまなハザード・脅威を対象として、法令や制度のレビュー、実務者を対象とした調査や健康危機対応の事後評価などを通じて、国や地方自治体の健康危機管理政策の分析・評価を行います。また、健康危機管理に従事する人材の確保・育成に向けた体制整備や研修・訓練手法の開発にも取り組みます。
国立感染症研究所感染症 危機管理研究センター 感染症危機管理学 Pandemic Prevention, Preparedness and Response 齋藤 智也	感染症危機に対する社会のレジリエンスを確保するための「備え(preparedness)」について、法制度・ガバナンス、対抗医薬品 (Medical Countermeasures; MCM)へのアクセス確保、危機管理オペレーション、人材開発、科学と政策の連携 (Science and Policy Interface)、公衆衛生と安全保障の連携 (Health and Security Interface) などの多角的な視点から掘りさげる実践的な研究を行います。